

## 2017日中学院・倉石賞

### 「わんりい」が受賞！

2月18日(土)、飯田橋の日中学院での名誉ある倉石賞授賞式に、‘わんりい’メンバー 14名及び‘わんりい’と長い付き合いのある中国の皆さん4名と共に参列しました。

会場は、黒板の上に、「中国語を勉強して、日中の架け橋になろう！」という趣旨の中国語が掲げられた教室二つを合せた会場で、和やかな雰囲気がありました。学院長先生のご挨拶では、長年日中友好に携わって実績を上げておられる自信とゆとりを感じ、そんな素晴らしい学院を創設された方の名を冠した賞の受賞に改めて嬉しさを感じました。

倉石賞の選考委員会は、学外から3名、学内から2名計5名で構成されているとのことで、今年は8件の候補が推薦されたそうですが、わんりいだけが満票で受賞が決定したとのこと。選考委員会の学外委員で早稲田大学教授・劉傑氏が選考委員会を代表した挨拶では、‘わんりい’の息の長い、幅広い活動にお褒めの言葉を頂きました。また、推薦者の花岡風子さんが、ご自身と日中学院、‘わんりい’との関係をお話しされ、倉石賞の趣旨を思い、‘わんりい’の活動内容を知った時に、両方に関わりのあるご自身が是非推薦をしたいと思われたとのことでした。

続いて、日中友好会館中国代表理事・鄭祥林氏、‘わんりい’と長いお付き合いのある中国藝術研究会事務局長の三山陵氏のお二人より来賓の祝辞を頂いた後、表彰式で、賞状を寺西さんが、副賞を鈴木千佳子さんが頂きました。

受賞者挨拶では会代表の田井さんが、特に中国に限った活動ではないのに、名誉ある賞がいただけで、意外だったが光栄であると話し、長く活動が続けられた理由として、会の仲間たちが好奇心旺盛な人たちであったこと、活動を通じて知り合った中国の方々が、人柄も才能も素晴らしい人たちであったこと、そして会の発足当時の社会情勢もあって、行政の支援と協力が得られたことを挙げて感謝をされました。

この挨拶は、周りの人々に印象深く受け止められ、この後の祝賀会の席上でも話題になっていました。中途参加の仲間としても、会のこのような姿勢が、わんりいを25年も継続させている原動力なのだと改めて感じ入った次第です。

(報告：有為楠君代)